©海事プレス社2026 禁無断転載

Daily Cargo

コンテナ製造で1000億ルピー支援

■インド政府、生産能力10倍に

インドは海上コンテナの製造能力を強化する。インド政府は10月28日、コンテナ製造促進スキーム（CMPS）を承認した。2039～40年度までの予算規模は1000億ルピーとなり、コンテナ製造施設の開設や既存製造拠点の拡張を支援する。国際競争力のあるコンテナ製造エコシステムを構築し、インド国内の年間コンテナ製造能力を約10倍の最大75万TEUに引き上げる方針だ。輸入依存度を低減するとともに、サプライチェーンの強靭化を図っていく。

インドの海事・物流サプライチェーンの強化策の一環となる。コンテナ製造能力の拡充により、約3000人の直接雇用と5万人以上の間接雇用を生み出し、角金具や特殊鋼材、塗料などの関連産業の支援にもつなげる。

CMPSの具体策として、利子補給支援制度に85億9000万ルピーを充てる。コンテナ製造メーカーが新規の製造施設の設立や既存施設の拡張のために利用するタームローンに対し、年率3%の利子補給を行う。

オペレーション支援には889億1000万ルピーを充てる。国際的な輸送基準に準拠して製造され、適格なコンテナ製造メーカーによって販売された全てのコンテナに対し補助を行う。コスト差を埋め、国産コンテナの競争力を向上させる狙いだ。

試験・認証支援に対しては15億ルピーを充てる。製造したコンテナの衝撃試験などを行う共通試験施設の整備を支援する。このほか、制度の運営・モニタリングなどに10億ルピーを充てる。

コンテナの製造は大半が中国で行われている。コンテナ輸送の物量が多い場所で製造することが望ましく、近年は東南アジアや南アジアからのコンテナ貨物の輸出が増えていることを踏まえ、ベトナムやインドでの製造も始まっている。

今年7月にはマースクがインド製の輸出入用コンテナの調達を初めて行った。DCMシュリラムグループに追加で1000本のコンテナを発注し、今後もインドでのコンテナ調達を本格的に進めていく方針だ。インド全体のコンテナ輸送量は2024年の約2400万TEUから、2047年までに1億7500万TEUに増加すると予想されている。コンテナ需要の増加を踏まえ、国も支援を強化して生産体制を拡大していく。